

もみじ

98



発行：放送大学福島学習センター
機関誌

〒963-8025

郡山市桑野1丁目22-21

TEL 024-921-7471

いわきサテライトスペース

TEL 0246-22-7318

<http://www.ouj.ac.jp>

—もみじの由来—

福島学習センターの建物は、もみじ館と呼ばれ、郡山女子大学発祥の地である。青葉の頃、紅葉の時期それぞれに美しい色どりが心をなぐさめる。当センター機関誌の名称としてまことにふさわしい。

重要!

お知らせ



◆面接授業や学習センター等の重要な情報については、システムWAKABA及び福島学習センターウェブサイトに掲載いたしますので、必ず週に1度はチェックするようにしてください。

【システムWAKABA】

<https://www.wakaba.ouj.ac.jp/portal/>

【福島学習センターウェブサイト】

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/>

◆学習センター閉所日について

福島学習センター及びいわきサテライトスペースの閉所日

毎週月曜日及び祝日・7月26日(火)・8月9日(火)～16日(火)・

9月17日(土)・9月18日(日)・9月20日(火)

※10月以降の臨時閉所日については、次号以降お知らせします。

◆図書・視聴学習室からのお知らせ

単位認定試験の実施に伴い、7月2日(土)～7月24日(日)まで図書の館外貸出を停止します。(夏季集中科目生は通常通りの館外貸出が可能です)

◆次学期に向けての手続き

- 次学期も学籍が続く方は、8月15日(月)～8月30日(火)〈本部大学必着〉の期間内に科目登録申請票(WAKABA申請可)を郵送してください。
- 今学期で学籍が切れる方で次学期も学習を継続される方、再試験を受ける方は、8月31日(水)〔第1回〕、9月13日(火)〔第2回〕〈大学本部必着〉まで継続入学出願票又は一般の学生募集要項(ネット出願可)を郵送してください。

◆機関誌「もみじ」及び「利用の手引き」の配布方法について

配布方法については、福島学習センターウェブサイト内の「機関誌紹介」及び「各種お手続き」(下記URL)に配布方法が掲載されています。配布希望者の方はウェブサイト参照の上、お手続きをしてください。

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/about/magazine.html>

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/procedure/>



「学び」と「居場所」

客員教員 五十嵐 敦

新型コロナウイルス感染症の蔓延の中で、学びのスタイルが大きく変わりました。職場でもテレワークへの移行が進み(思ったほどは拡大しませんでした)、オンラインでのやり取りがかなり浸透しました。一方で、利点ばかりでなく、心理的には孤独感が強まることや学びの偏りと浅薄さが問題にもなっています。資料などを書面で読む場合とディスプレイ画面で読む場合とでは、前者の方が記憶に残りやすく学習効果が高いという報告もあります。

大切なのは人との交流です。オンラインでももちろん可能ですが、対話はもちろん他の学習者と「一緒に」「共に」学ぶことの効果ははかり知れません。放送大学のような学習の場は、私たちにとって学ぶ場であり居場所としての意味もあります。それぞれが学んだものを持ちより、積極的に学びの場に参加することで多様な領域を覗き、新たな知識に触れることができます。異なる視点からの刺激は、学びをさらに深めてくれるはずです。皆さんは気づいていらっしゃると思いますが、これからは放送大学での学び方が主流になっていくのではないのでしょうか。

キャリア発達とメンタルヘルスは、私たちの人生を支える大切な柱です。人生そのものがキャリア発達の過程ですし、それはメンタルヘルスの影響に大きく左右されます。ここでも不可欠なのが「学び」です。生涯発達の過程は、学習の連続です。それまでの生活で学び培ってきたものを生かして、新たな局面や課題に対処することで更に学びは継続されていきます。キャリア形成は学びと経験の連続体でもあります。

ゴスタ・レーンが提唱したリカレント教育は、1970年代にOECDが取り上げたことで世界的に認知されました。リカレント(recurrent)は反復・循環・回帰を意味します。これからの長寿化時代を生き延びるには、学び続けることがより必要になっています。学ぶ私たちも生活を取り巻く状況も変化している中で、学びの方法も内容もいつまでも同じではありません。専門的な知識や技術の学びはもちろん、私たちが日常生活の中でもった疑問や好奇心を大切にしましょう。学びを通して多角的なものごとをとらえていく「居場所」としての放送大学で、さらに「学ぶ」ことを楽しみたいものです。

ポアンカレは、「石を積み上げて家を造るのと同じように、科学も事実の積み重ねの上に成り立つ。けれども、事実を集めれば科学になるのではない。石を山のように集めても家にならないのと同じことだ。」と言っています。私たち一人ひとりが毎日精一杯生きている中にたくさんある事実をみんなで持ちよって、学問の世界から眺めてみましょう。科学に基づいた、新たな姿や景色が見えてくるかもしれません。放送大学が、そのような気づきや発見を楽しみ、共に学ぶ時間を大切にできる居場所になるといいですね。

令和3年度第2学期 卒業証書・学位記授与式

令和4年3月26日(土)福島学習センター、3月27日(日)いわきサテライトスペースにて卒業証書・学位記授与式が行われ、卒業を迎えられた37名のうち17名の出席がありました。

学歌斉唱のあと、千葉所長から一人ひとりに卒業証書・学位記が手渡され、お祝いの式辞がありました。

続いて卒業生を代表して、福島学習センターでは丹治芙希さんが「御礼のことば」を述べました。

ご卒業おめでとうございます



※延べ卒業生数 大学院57名 教養学部927名
(いわきサテライトスペース卒業生数含む)

令和4年度第1学期 入学者の集い

卒業証書・学位記授与式に引き続き、令和4年度第1学期入学者の集いとオリエンテーションが行われました。千葉所長の挨拶の後、オリエンテーションでは放送授業、面接授業、オンライン授業、施設の利用方法、客員教員ゼミや所長カフェ等の説明が行われ、新入生の皆さんは熱心に聞いておられました。



御礼のことば

丹治 美希

今年、東日本大震災から11年が経ちました。放送大学の面接授業では「あの日何してた」という話題がよくあがったのを思い出します。

生まれつき病気がある私は、体調不良と人間関係が上手くいかず、高校を中退していました。震災当時は引きこもりに近い状態で、ライフラインが復旧するまでの間、何もできず過ごしていたと記憶しています。高卒認定試験を受けたのは震災から4年後でした。きっかけはテレビで芸能人が高認試験を受けるのを観たからです。それに興味を持った私は、自分でも驚くほどの行動力で高認を取り、2016年に放送大学へ入学しました。人との関わりを持ちたかった私は面接授業のグループワークがとても楽しかったと同時に、自分の何もない過去に劣等感が湧きました。コンプレックスの学歴を克服するため放送大学へ入ったにも拘らず、働いていないことへのコンプレックスがやってきたのです。面接授業での自己開示はとても勇気のいることで、仕方なく病気のこと、過去が挫折だらけだったことを話しました。苦手だった自己開示を優しく受け入れてもらえた時の安心感は今までに

ないものでした。

自分に自信がない私は、人間の心理を学ぶことで自分を変えられると考え、心理と教育コースを選びました。しかし、心理学を勉強しても自分が得たかった答えには辿り着けず、勉強が辛くなった時期もありました。働きたい自分にとって足りないものは障害者を支援してくれるための知識だと気づき、社会保障や福祉関係の勉強に取り組みました。この春から私は就労移行支援の事業所に通う予定です。放送大学で私が学び実感したことは、社会に参加することは、自己肯定感を高めてくれるということです。ここまで辿り着くには、震災であったり予期せぬ入院、一步踏み出せない自分など、長い寄り道があったと思います。しかしそれは無駄な時間ではなかったと今なら言い切れます。何故なら自分に必要な知識を自主的に学んでいく、それが生涯学習だと学ぶことができた私は今の自分に自信を持ってているからです。

最後になりますが、放送大学と卒業生の皆様の一層の発展を願い、御礼の言葉とさせていただきます。

令和4年3月26日

M E M O



公開講演会のお知らせ

日時／**2022(令和4)年9/3^土**
 ■開場12:30 ■開演13:00～14:30

会場／いわき産業創造館(LATOV6階)
 演題／子どもの権利と市民活動：
 活動から生まれた“権利に関する言葉”

講師／放送大学客員准教授
 東日本国際大学経済経営学部准教授
南雲 勇多 氏

日時／**2022(令和4)年9/11^日**
 ■開場12:30 ■開演13:00～14:30

会場／放送大学福島学習センター講義室
 演題／これからの時代の働き方と健康
 ～ストレスとキャリア～

講師／放送大学客員教授
 福島大学名誉教授
五十嵐 敦 氏

日時／**2022(令和4)年9/11^日**
 ■開場14:45 ■開演15:00～16:30

会場／放送大学福島学習センター講義室
 演題／動作連鎖からみた縄文土偶
 -八頭身土偶は自立していたのか?-

講師／放送大学客員教授
 郡山女子大学短期大学部教授
會田 容弘 氏

定員・お申込み・お問い合わせ

■各先着35名(要予約)

※各回とも定員になり次第終了します。お早めにお申込みください。

■事前電話予約

開催地別に電話でお申込みください。

- ・いわき いわきサテライトスペース
- ・郡山 福島学習センター

主催：放送大学福島学習センター 後援：福島県教育委員会・郡山市教育委員会・いわき市教育委員会

いわき

いわき産業創造館(LATOV6階)

令和4年 **9月3日(土)**
13:00～14:30(12:30開場)



**子どもの権利と市民活動：
活動から生まれた“権利に関する言葉”**



講師 南雲 勇多 先生
放送大学客員准教授
東日本国際大学経済経営学部准教授

今年、国連「子どもの権利条約」が採択されてから33年目になります。2024年には子どもの権利に関する初めての国際文書である「子どもの権利宣言(ジュネーブ宣言)」から100周年を迎えます。一方で、私たちの社会ではまだ子どもに関わる社会課題が関わっています。今回は子どもの権利とは何かを確認していきながら、その子どもの権利の実現を支えてきた市民活動と、そこから生まれた「権利に関する言葉」についてふれていきます。

郡山

放送大学福島学習センター講義室

令和4年 **9月11日(日)**
13:00～14:30(12:30開場)



**これからの時代の働き方と健康
～ストレスとキャリア～**



講師 五十嵐 敦 先生
放送大学客員教授
福島大学名誉教授

「働く」ということは職業に限りません。毎日の生活の中で私たちは、さまざまな役割を担い行動することで人生というキャリアを形成しています。生きていけば年を重ねることも、ストレスとつき合っていくことも避けられません。曖昧さと不安に満ちたこれからの時代、私たちの時間の過ごし方について心理学の視点から考えてみます。

オープン
キャンパスも
同時開催

要申込 12:30～13:00
放送大学内容説明・施設見学など

郡山

放送大学福島学習センター講義室

令和4年 **9月11日(日)**
15:00～16:30(14:45開場)



**動作連鎖からみた縄文土偶
-八頭身土偶は自立していたのか?-**



講師 會田 容弘 先生
放送大学客員教授
郡山女子大学短期大学部教授

土偶は縄文時代を代表する造形表現物です。土偶は女性を表現していることから、「縄文の女神」と呼ばれたりします。さらに、ほとんどの土偶は壊れており、完全な形で出土する例はほんの少数です。そこから、土偶を壊す祭祀があったのではなかという仮説が提議されたりしています。でも、それは本当でしょうか？宮城県蔵王町谷地遺跡の土偶製作動作連鎖から再考してみました。土偶は壊すために作られたのでしょうか？

お申込み・お問い合わせ先

放送大学福島学習センター
〒963-8025
郡山市桑野1丁目22番21号
TEL.024-921-7471
<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/>

**放送大学いわき
サテライトスペース**
〒970-8023
いわき市平鎌田字寿金沢22-1(東日本国際大学5号館5階)
TEL.0246-22-7318



学生サークル紹介

登山サークル



空の上に浮かぶ飯豊を見に、喜多方の山「鳥屋山」へ4月編 登山サークル 木下 知也

2、3日前まで冬に戻ったような寒い日が続いていたが、今日は快晴で絶好の登山日和である。

会津地方の桜はどこも今が満開で2回目の花見を見に来たようである。登山サークルにとって今年度の一回目の山行は、喜多方にある鳥屋山からまだまだ多くの雪を被った飯豊を見ようと計画された。本来であれば、山開きの日であるがコロナ禍の影響で中止である。

それでも駐車場には十数台の車があり、もうすでに登っているらしい。我々登山サークル7人とその家族計10人である。鳥屋山登山口には各ポイントまでの所要時間が記載してあり、おおよその行程が読める。途中この山の見せ場のカタクリ群生地があり、今が見頃らしい。太陽の日もまだ弱いせいか、カタクリの花が閉じているが、帰り道では咲き乱れることを祈る。

第一見晴台まで階段状の登り坂が続く、ようやく雪解けが終えたようなぬかるみもあり今年度最初の山行としては厳しく、息が切れる。ようやく第一見晴台に到着。北の方を見るとそこには真っ白な残雪を抱いている飯豊連峰(南の三国岳から本山、大日岳まで)が青い空に浮かんでいるように見える。次に第二見晴らし台を目指す。そこまでは、アップダウンを数度繰り返し登る。尾根筋の東側には多くの残雪があり、今年の雪の多さが分かる。第二見晴らし台に着くと、もっと広がった空間に磐梯山や吾妻の峰々が見えてくる。山頂まではここから20分とのこと、さあもう少しだ、頑張ろう。

11時過ぎ「鳥屋山」山頂に到着する。飯豊連峰が木々の障害物もなく、白い雪を抱いた山塊が青い空に浮かんでいて感動!

山頂からの視界は270度に広がる山々、眼下には悠々と流れる阿賀川や田園地帯も広く眺められた。栗ご飯を持ってきた方からご馳走になる。周りには、地元のスポーツ少年団と思われる子供たちも持ってきたお弁当をおいしそうに食べている。この雄大な景色を「おかず」にみんな満足そうである。下山前に恒例の集合写真をパチリ、忘れ物がないか確認し下山となった。途中水場があり立ち寄った。日本の多くの山々にある弘法清水である。気温が上がってきている中での疲れた身体には、有難い水場である。飲むと疲れた体全体にいきわたるようである。持ってきた水筒にも入れ、今晚はウイスキーの水割りだ。登りに見たカタクリの花は思った通り花が開いて見事な群集となり、また感動!

山行後の楽しみでもある温泉は、「ふれあいランド高郷」。大きな露天風呂もある気分のいい温泉施設であった。更に帰路途中の「道の駅あいづ」に立ち寄る。

今日の好天の会津地方は、桜満開であることから観光客も多く、コロナ禍の中でも人々の愉楽の気分が優ってきているようだ。

夕刻、放送大学駐車場に全員無事に到着。まさに登山日和の一日であった。

登山サークルでは、月1回のペースで山行をおこなっています。入会希望の方がおられましたら、幹事・斎藤(携帯 080-1809-0046)までご連絡願います。

また、お試し参加も歓迎します。

